

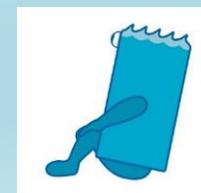
平成30年度第2回広島県道徳教育研究協議会（実践報告）
自己肯定感・自己有用感を高める道徳教育の在り方
～宮原らしいカリキュラムの実現と対話的な学びを通して～



平成31年2月8日（金）
呉市立宮原中学校
推進リーダー教師（研究主任） 高野 由香

報告の流れ

- 1 研究の概要
- 2 研究内容
- 3 検証及び成果と課題



研究の概要

研究内容

検証及び成果と課題

学校教育目標

夢を志に

～豊かな心と確かな学力を身に付け、
たくましく生きる生徒の育成～

めざす子ども像

宮原への誇りをもち、
夢と志をもって
よりよく生きようとする生徒

研究の概要

研究内容

検証及び成果と課題

研究主題

自己肯定感・自己有用感を高める
道徳教育の在り方
～宮原らしいカリキュラムの実現と対話的な学びを通して～



【本校の実態】

- 地域の環境
呉市の日本遺産の構成文化財の3分の2が宮原地区にある。
- 生徒の実態
自己肯定感・自己有用感に関するアンケートの肯定的回答が60～70%程度

自己肯定感，自己有用感の定義

自己肯定感	自分に対する肯定的な意識
自己有用感	「人の役に立った」「人から感謝された」「人から認められた」という自分と他者（集団や社会）との関係を自他共に肯定的に受け入れられることで生まれる自己に対する肯定的な感情

自己肯定感：第38回教育再生実行会議 配付資料（参考資料2）

自己有用感：生徒指導リーフ Leaf.18 生徒指導・進路指導研究センター（国立教育政策研究所）

「ひと」
人財 少子高齢
小規模校



「もの」
自然 地形
施設 産業



「こと」
歴史
文化 交流



研究仮説

宮原らしい総合
単元的な道徳学
習プログラム

対話的な学び・
思考を深める
授業づくり



自己肯定感・自己有用感の向上

道徳性の涵養

研究内容

- 1 対話的な学びのある授業づくり
- 2 宮原らしい道徳学習プログラムの実現

1 対話的な学びのある道徳の授業づくり

(2) 【学習材対話】の工夫(学習材の提示の工夫)

- ア 写真, ポスター, 作文, エッセイ, 詩などの提示
- イ 映像, 劇, 音楽, 歌などの視聴
- ウ 各調査結果資料や生徒アンケート結果の提示
- エ ゲームやクイズの実施
- オ 新聞記事などの事実や実物(もの, 人)の提示
- カ 教材の分割提示

1 対話的な学びのある道徳の授業づくり

(2) 【学習材対話】の工夫(学習材の提示の工夫)

映像による教材提示

学習材の提示の工夫



1 対話的な学びのある道徳の授業づくり

(3) 【友だち対話】の工夫

(対話モデルを活用した論理的思考力を育てる効果的な対話)

対話モデルの活用

思考を吟味・整理する

思考を比較・関係づける。

思考の質を高める
思考を前に進める

どれがいい
まとめる

根拠は
本当に
そう?
たとえば

賛成
反対
付け加え

1 対話的な学びのある道徳の授業づくり

(3) 【友だち対話】の工夫

(対話モデルを活用した論理的思考力を育てる効果的な対話)

根拠は

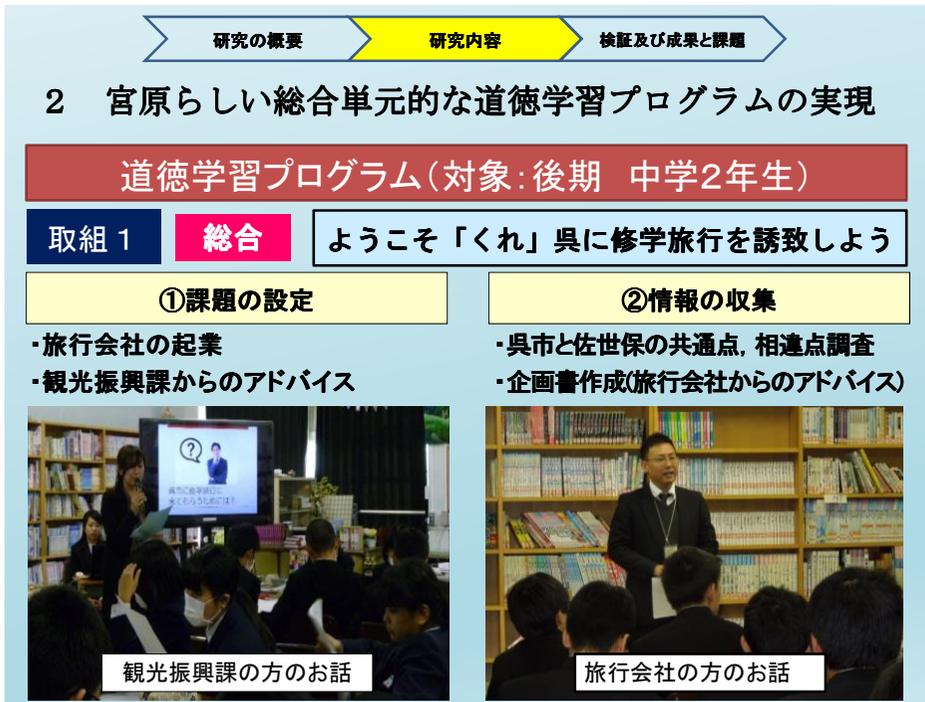
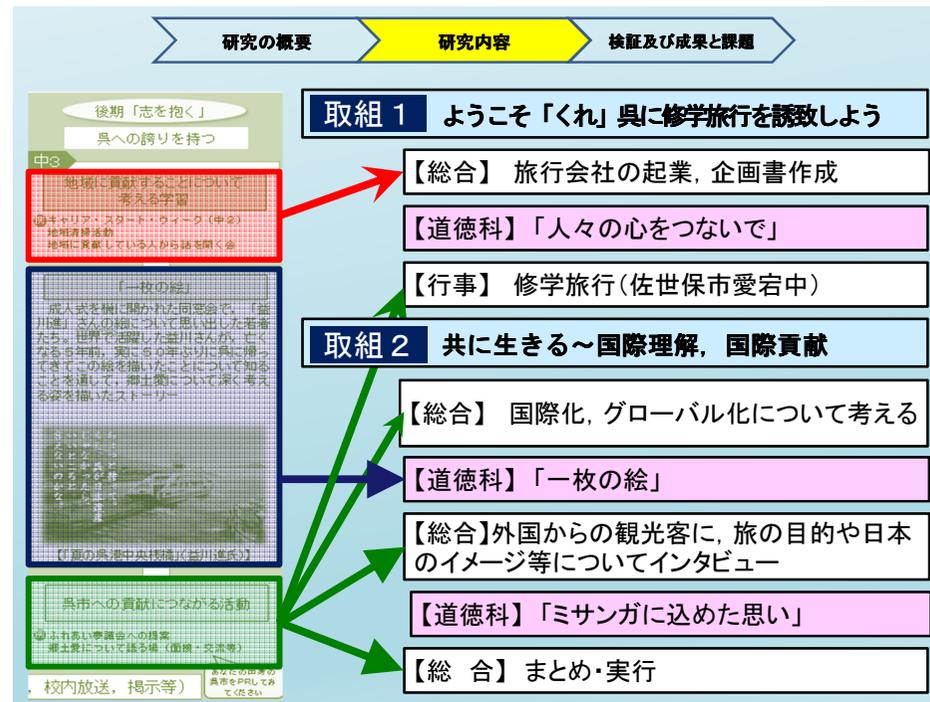
賛成

付け加え

表
まとめると

裏
みんなの意見を整理するとどうなりますか

話し合いの工夫



2 宮原らしい総合単元的な道徳学習プログラムの実現

道徳学習プログラム(対象:後期 中学2年生)

取組 1

総合

ようこそ「くれ」呉に修学旅行を誘致しよう

③整理分析

- ・呉と佐世保の共通点・相違点の分析
- ・発表準備(効果的な発表の仕方)



佐世保と呉の相違点の分析

④新たな課題の設定

- ・校内プレゼン
- ・修学旅行でのプレゼン

「この世界の片隅に」
聖地巡礼

宮原トラベル

2 宮原らしい総合単元的な道徳学習プログラムの実現

「この世界の片隅に」
聖地巡礼

宮原トラベル

2 宮原らしい総合単元的な道徳学習プログラムの実現

道徳学習プログラム(対象:後期 中学3年生)

取組 2

総合

共に生きる～国際理解, 国際貢献

①課題の設定

- ・国際化, グローバル化について考える
- ・身近な国際化について考える



②情報の収集, 整理・分析

- ・外国からの観光客に, 旅の目的や日本のイメージ等についてインタビュー
- ・身近な国際化についてまとめる



2 宮原らしい総合単元的な道徳学習プログラムの実現

道徳学習プログラム(対象:後期 中学3年生)

道徳科

「一枚の絵」



【教材の内容】

成人式を機に開かれた同窓会で、「益川進」さんの絵について思い出した若者たち。世界で活躍した益川さんが、亡くなる5年前、実に50年ぶりに呉に帰ってきてこの絵を描いたことについて知ることを通して、郷土愛について深く考える姿を描いたストーリー

【夏の呉港中央棧橋】この絵は、呉市出身で世界的に有名な広告デザイナー益川進さんが、晩年の平成2年に描いた絵である。

2 宮原らしい総合単元的な道徳学習プログラムの実現

道徳学習プログラム(対象:後期 中学3年生)

道徳科

「ミサンガに込めた思い」



【教材の内容】

総合的な学習の時間に、国際協力を学んで、カンボジアの子どもたちのために安易に募金活動をしようとした自分たちの考えの浅さに気付いた主人公。その後、心を込めてできる何かを考えるなかで、ミサンガを作り、募金をしてくれた人に渡すことにしたことが描かれている。

【ミサンガ】何本もの糸を組んで作る装飾品。それを手首足首などに巻いて過ごしているうちにミサンガが切れると願いが叶うといわれている。

検証及び成果と課題

- 取組の検証
 - 1 対話的な学びのある道徳の授業に係る検証
 - 2 自己肯定感・自己有用感の高まりに係る検証
- 成果と課題

1 対話的な学びのある道徳の授業に係る検証

(1) 授業ごとの生徒の自己評価

振り返りシートの四つの視点

- | | |
|------|-------------------------------------------------|
| 第1段階 | 資料の内容は理解できているが、
高めたい道徳的価値を 理解できていない 。 |
| 第2段階 | 高めたい道徳的価値を 理解できている 。 |
| 第3段階 | 高めたい道徳的価値を理解し、
自分なりに実践していこう としている。 |
| 第4段階 | 高めたい道徳的価値を理解し、
他者にはたらきかけたい としている。 |

振り返りシートの四つの視点の例
(第3学年のワークシートから)

- ◆第1段階 益川さんは、世界的に有名なデザイナーなんだ。すごいな!
- ◆第2段階 益川さんの思いを通して、郷土である呉(宮原)を大切に思う気持ちは大切なことなんだな。
- ◆第3段階 自分は郷土を大切に思っているかな、どうかなと考えた。
- ◆第4段階 大切な郷土のために、自分としてできることを考えていきたい。

到達目標

- | | |
|------|--------|
| 第1学年 | 第2～3段階 |
| 第2学年 | 第3段階 |
| 第3学年 | 第3～4段階 |



1 対話的な学びのある道徳の授業に係る検証

(1) 授業ごとの生徒の自己評価

思考を深める対話的な学びに係る三つの視点

- ① 自分の考えがしっかりとしたものになった。
- ② 自分の考えが変わった。
- ③ 新しい考えを思いついた

1 対話的な学びのある道徳の授業に係る検証

雨にぬれてまですずらんを届けにきてくれてありがとう。(中略)
これからもずっと仲良しでいようね

私も心をおちつかせて**自分の性格を見つめ直そう**と思いました。
いくらさみしい孤独な人でも同じような人はたくさんいるから、
自信を持ってほしいと思いました。

自分だけが幸せを感じるだけでなく、**みんなで幸せを感じられるように、自分の生き方を振り返って見直そう**と思いました。

※ 学習を通して、自分のことを振り返るとともに、幸せについて
他者の視点から考えるなど、多面的に考えることができるよう
になっている。

2 自己肯定感・自己有用感の高まりに係る検証

評価システム (i-check) による生徒の意識調査

質問項目	平成29年度	平成30年度前期
自己肯定感・自己有用感の育成 ・自分にはよいところがあると思います ・自分なりに自信を持っていることがあります ・自分が成長したという実感があります ・将来の夢や目標をもっている ・将来の夢や目標に向かって努力しています	75% (77%)	80% (77%)
自己有用感の育成 ・友だちや大人から褒められたことがある ・人から頼りにされたり、期待されていると感じる	54% (58%)	60% (60%)

()内は全国平均

自己肯定感・自己有用感の肯定的回答の割合

質問項目	体育大会	宮原地区 クリーン活動	文化 発表会
自己肯定感・自己有用感の育成 ・仲間との連帯感を感じた。 ・満足感・達成感を感じた。 ・自分は成長したと感じた。 ・今後の生活に生かそうと思う	94%	82%	97%

体験活動の計画的実施、道徳の授業との関連
→ **道徳学習プログラムの作成・実施**

成果と課題

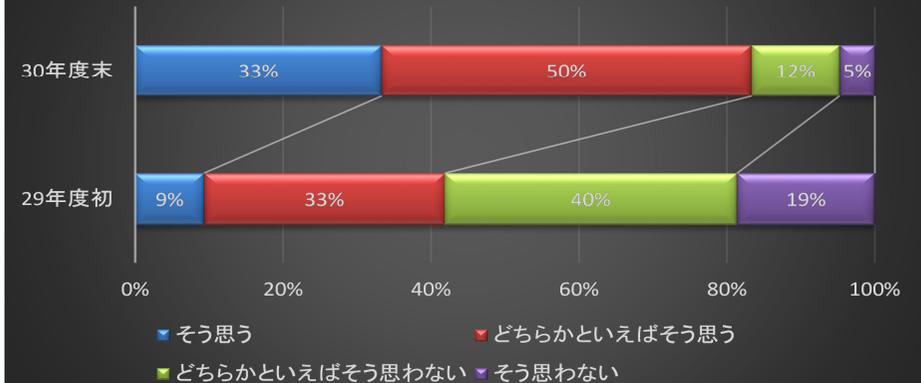
【成果】

- 指導方法の工夫・改善
→ 「**道德の時間**」に対する生徒の意識や意欲の向上
自己肯定感の向上
教職員の意識の向上（記述・四つの視点・三つの視点）
- 生徒による自己評価
→ **道德的価値の生徒の受けとめ状況の把握**
次時の授業の改善
- 道徳科としての妥当性のある評価への道筋

◇ H29年度前期 H30年度後期生徒の意識の変容 ◇

生徒の意識や意欲の向上

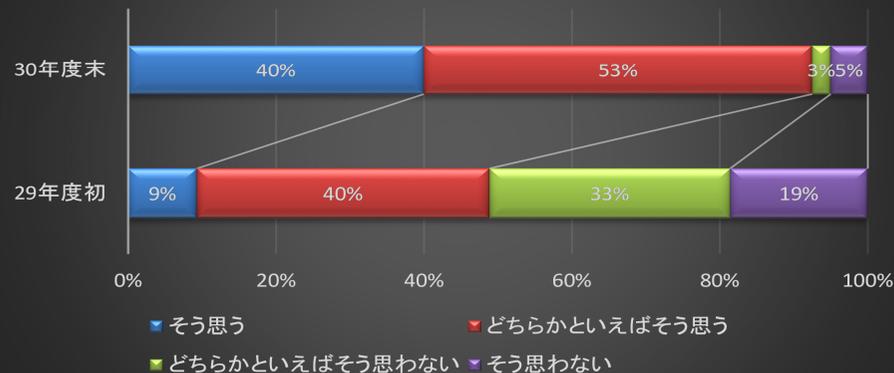
「道德の時間」の勉強は好きだ



◇ H29年度前期 H30年度後期生徒の意識の変容 ◇

生徒の意識や意欲の向上

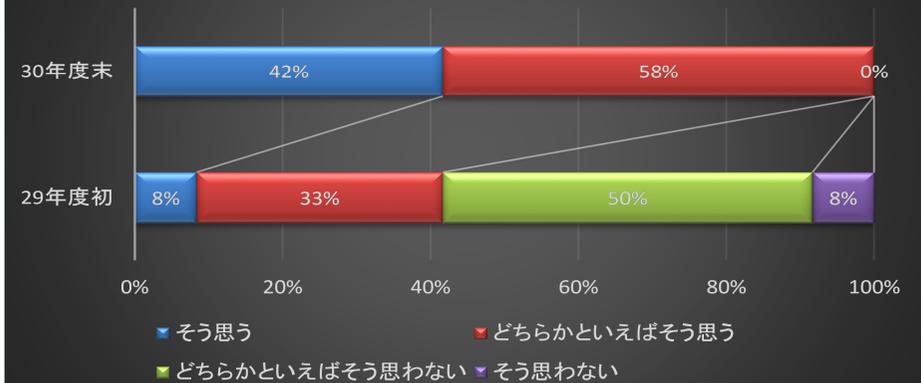
「道德の時間」では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりしている



◇ H29年度前期 H30年度後期教職員の意識の変容 ◇

教職員の意識の向上

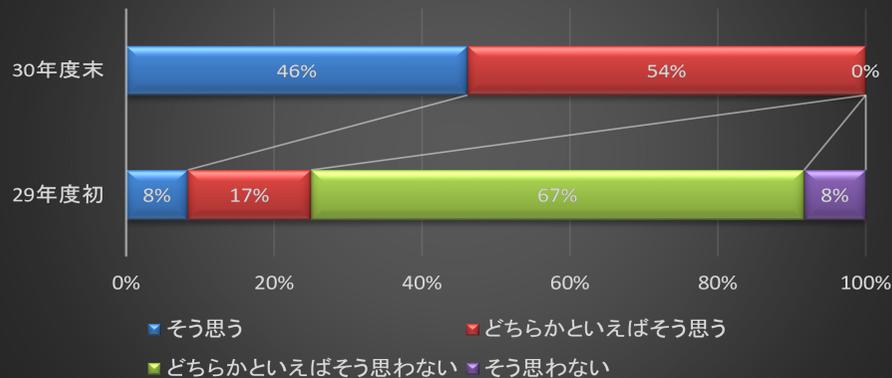
「道德の時間」では、児童生徒が友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり、広げたりするような指導の工夫をしている



◇ H29年度前期 H30年度後期教職員の意識の変容 ◇

教職員の意識の向上

「道徳の時間」では、「特別の教科 道徳」の趣旨を踏まえた、多様な指導方法の工夫を取り入れている



成果と課題

【課題及び今後に向けて】

- ・ 話し合い活動を充実させる。
 - ・ 自己有用感を高める。
- (総合単元的な道徳学習プログラムの改善)
- ・ 評価について

御清聴
ありがとうございました

